

錯視芸術と日本美の魅力

日本とフィンランドの国交100周年に合わせた展覧会「Japonism Today展」が5月に始まり、9月8日までフィンランドのエミール・セーデル・クロイツ美術館で開かれている。メインアーティストとして出品している崇城大総合教育センターの星加民雄准教授(64)＝熊本市＝に現地の様子を寄稿してもらった。

フィンランドと日本 国交100周年記念展覧会

寄稿 崇城大准教授 星加 民雄

展覧会のコンセプトは「錯視芸術と日本の美」。日本の古典表現に見る錯視や、芸術表現に裏打ちされた錯視の表現世界、ならびに日本美の魅力を創出することを目的とする。出展者は私とフィンランド在住の弟星加達夫、扇研究家で日本画家の阿部富士子、科学者の杉原厚吉、北岡明佳、宮崎桂一。人間の「眼」を重要な表現要素に取り入れ、視覚の不思議さを探求する視覚芸術家と錯視研究者を中心とする構成である。

私は、見る人の視点の移動に伴って一斉に無数の板が動いて見える体感型の平

面作品を9点展示している。「Wave Motion Illusion 1955-2015」は、横幅10段の超大作で、視点の移動に伴い1140枚の板が一斉に揺れ動いて見える。「十二単」をテーマにしたシリーズも、日本の伝統色と余白の美しさで日本美の魅力を表現した。

私は、見る人の視点の移動に伴って一斉に無数の板が動いて見える体感型の平



「錯視芸術と日本の美」をテーマにした星加民雄さんの大作「Wave Motion Illusion 1955-2015」の前に立つ星加さん(右から3人目)ら＝フィンランドのエミール・セーデル・クロイツ美術館(星加さん提供)

を出展している。後半の展示では、人の動作を連写的に捉え、その残像の重なりを独特なムーブマン表現で制作した油絵を展示する。

開会ではフィンランド国旗と日の丸が青空に掲揚され、観客約300人が見守る中で盛大なセレモニーが行われた。私の友人のピアニスト志娥慶香も熊本から駆けつけ、フィンランドの風景を描写した曲を披露して会場を盛り上げた。

白夜に始まり白夜に終わる本展のサマリーイベントでは、芸術と工学の融合をテーマにしたシンポジウムや「紅花」をテーマにした演劇も開催される。フィンランド在住の世界的な左手ピアニスト・館野泉によるコンサートも予定されている。(敬称略)